

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果(岡部中学校)

平均正答率

自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

	国語	数学	理科
岡部中	下回った	下回った	同等
埼玉県	55	50	49
全国	54.3	48.3	49

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値(単位 %)

	質 問 事 項	岡部中	埼玉県	全国
生活習慣	朝食を毎日食べている	95.4	91.7	91.2
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	84.1	81.7	51.0
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	91.4	92.8	92.6
学習習慣	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている	77.5	81	77.5
	学校の授業時間以外に、普段1日当たり1時間以上、勉強をする(学習塾や家庭教師、ICTを活用して学ぶ時間も含む)	70.2	66.8	61.6
	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強をする	54.3	61.4	57.9
	学校の授業時間以外に、普段1日当たり30分以上、読書をする	23.2	22.1	21.4
教科の関心	国語の勉強は好きだ	51.7	58.5	57.9
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	89.4	89.5	88.3
	数学の勉強は好きだ	50.3	53.5	53.8
	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	86.1	74.3	75.2
	理科の勉強は好きだ	90.8	64.5	63.8
	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	77.5	64.2	63.4
主体的対話的な学び	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	81.5	83	77.7
	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた	67.6	71.2	63
	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた	71.5	77.7	70.6
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた	88.7	88	84.7
その他	自分には、よいところがあると思う	89.4	88.0	86.2
	将来の夢や目標をもっている	82.1	69.9	67.5
	人の役に立つ人間になりたいと思う	99.3	96.8	96.6
	地域の大人に勉強やスポーツ等で関わってもらえる	64.9	62.3	63.8

## 公表例

### 【質問紙分析】

- ・教科の学習について、「好き」であったり、「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」であったりすると、学力は高くなる。
- ・「将来の夢や目標をもっている」は高い傾向にある。
- ・「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強をする」が低い。

### 全国の平均正答率と比較して大きく上回った問題○と課題のある問題●とその理由

#### 【国語】

- 物語の問題には意欲的に取り組む生徒が多く、無回答率も低い傾向にある。
- 文章を書くことに関する問題は苦手だが、必要な資料の整理や内容のまとまりを捉えることは半分以上の生徒が正答している。
- 「手紙の書き方」を理解していない生徒が多い。
- 対象を考えたり、資料や機器を用いたりして、「自分の考えをわかりやすく伝える表現」や「根拠」を考えることに苦手意識があり、無回答率も高い傾向にある。

#### 【算数・数学】

- 問題の形式が「選択式」の問題では反応がよく、無回答率は低い傾向がみられる。
- 中学3年生が直近に学習した中学2年生の単元「確率」の正答率は、他の問題より県平均、市平均に近い数値だった。
- 2**「割合」や「分数」のように実際、目で見ることができない小学校で既に学習した内容が理解できていない生徒が多く、誤答の幅も広い。
- 4**「変化の割合」という用語のように字面から意味が読み取りにくい用語、**9**(2)「平行四辺形に関連する情報(定義、性質、条件)」のように量が多く、理解や定着に時間が必要な内容では、意味が分からず、何となく解答をしている生徒が多くいると思われる、誤答の幅が広い。また、無解答も多い。

#### 【理科】

- 4(2)5(1)のように、気体の性質や器具の操作の内容を理解し、生活の中で適切に生かしていく正答率は極めて高い。
- 3(2)のように、電気抵抗に関する知識を手掛かりに、身近な電気回路に抵抗のある理由を適切に説明できている。
- 2(1)より、課題設定と結果を予測した適切な実験方法、課題に沿った考察をすることが理解できていない生徒が多い。
- 8(2)9(1)より、空間的・時間的に広がりのある事象理解が定着しづらい。学習により、イメージを変えるまで考察を深めることが必要になる。

【国語】

- ・手紙やメールの書き方のような形式的なものの学習や、目に触れる機会を増やす。
- ・普段の生活のなかで、発表内容やまとめる方法において効果や意図を実感できる機会を増やし、よりよい発表のための手立てを考えさせる。

【算数・数学】

- ・授業で学習する専門的な用語は、表面上の「形」を覚えるだけでなく、日頃からその「意味」を問い続けるなど発問を工夫することで、知識を理解させる。
- ・知識の定着に向けて、意味を一度で理解できない場合は、反復練習などで記憶する必要がある。そのための時間を授業以外の時間で確保したい。

【理科】

- ・実験や観察を行う際、結果を分析理解し、それを根拠に課題に正対した考察を行うことが行われなければならない。予想と反した結果の場合、失敗として検証せずに切り捨てるのではなく、対話的・協動的な学習を通して解決していきたい。
- ・課題によっては、生徒が実験計画を立案し課題を解決していく学習の進め方に取り組む必要がある。
- ・イメージを膨らませ、変え得るような教材・実験方法の工夫に取り組んでいく。

【その他】

- ・学校研究の一環として、教師の指導力向上に係る研究を継続して行う。